

はと組

— 3学期の目標 —

- ◎自分の言葉で思いを伝え、相手の気持ちを聞きながら一緒に遊びを楽しむ。
- ◎基本的な生活習慣を身につけ、身の回りのことを自分でしようとする。

— 活動内容 —

ぼうしやさんのおうちを作ろう

(協同性、社会生活と関わり、思考力の芽生え、言葉による伝えあい
豊かな感性と表現、数量・図形、文字等への関心・感覚)

- ・1月、子ども達から帽子屋さんの話しができる。そこで、作品展に向けての話しをし、帽子を飾るものを作ることが子どもたちからの提案がでて、作るものを話し合った。
- ・さまざまな技法を使って、作品を作る。その中で色の混ざり具合や濃さなどを楽しんでいく。
- ・はさみや筆の使い方、テープ、ボンドなど、さまざまな道具の使い方を確認しながら取り組んでいく。
- ・参観日を通し、保護者の方や友だちと作品を見て、作る過程を伝えたり、ほかのクラスの作品にも親しみをもち見たり、遊んだりすることができた。



みんなであーそーぼー♪

(健康な心と体、道徳性・規範意識の芽生え、協同性)

自立心、思考力の芽生え、言葉による伝え合い、豊かな感性と表現)

- ・3学期は異年齢と過ごす時間を設けた。
- ・ゆりぐみと礼拝を一緒に守る中で、自己紹介をしたり、最初は緊張していた子どもたちも回を重ねるごとに大きな声で言えたり、隣同士に座る子どももいた。
- ・ゆりぐみとじゃんけん列車、フルーツバスケットをする。フルーツバスケットでは、2学期後半ルールがなんとなく理解してきた子どもたちだったが、お兄さん・お姉さんにリードされ、ルールを理解し、参加していた。
- ・こあらぐみとは、引っ越しゲーム・椅子取りゲームをする。いつもは、座れずに泣いてしまう子どもも涙を我慢したり、教えたりやさしい姿があった。
- ・戸外遊びで一緒に遊んだり、縦の関わりがみられるようになった。

— 3学期の反省 —

- ・2学期のクリスマス祝会で行ったオペレッタを通して、一人ひとりがイメージを持って作品展に向けて取り組むことができた。
- ・自分たちで体験したことを遊びの中で取り入れていて、自分たちなりに考え、楽しんで遊んでいた。
- ・お正月遊びでは、伝承遊びに触れ、かるたなどみんなで遊ぶ楽しさを味わい、文字に興味を持つ子どもがふえた。
- ・ゲームなどを通して、自分の思いを言葉で伝える場面を多く作った。友だちの存在が大きく、日常の遊びの場面でトラブルになった時に言葉で思いを伝えることが増え、伝わった時の心地よさを感じていた。

— 年間反省 —

- ・一年を通して、園生活のリズムを覚え、ほとんどの子どもが朝の準備や着替えなど、身の回りのことはできるようになってきた。途中、喋りに夢中になってしまう子どももいて、時間差があるが、声をかけると時間を意識して取り組む姿も見られるようになった。
- ・預かりが多いこともあり、運動会前まで、預かりの子どもは午睡をした。少しずつ体力もついてきて、様々な面で意欲的に参加し、みんなで一つのことに取り組む楽しさを感じて過ごすことができた。
- ・その中で、自分なりに考えたり、発言したりしながら、相手の気持ちに気づくことができるようになってきた。